

分科会開催報告書

報告日 平成28年 12月 1日	報告者 小幡友子																																	
分科会名 浮雲俳句会	開催テーマ 第104回浮雲俳句会例会																																	
開催日時 平成28年11月27日(日) 午前 9:30~11:30	開催場所 金沢地区センター小会議室																																	
参加人数 “わ”の会会員 男12名 女5名	合計 17名 欠席者 0名																																	
<p>実施内容</p> <p>第104回例会の出句は兼題①阿寒湖 ②初冬の動物(虫を除く)と当季雑詠の4句。句会は、大川会員による添削披露及び鈴木勇夫会員による選句の披講の後、北野主宰から天地人賞及び特選5句並びに佳作9句の発表と、夫々の句についての論評があった。</p> <table border="0"> <tr> <td>天賞句</td> <td>阿寒湖のいのち鎮もる凍曇</td> <td>和 女</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>^{むささび} 鼯の飛び出しを待つ間の宿</td> <td>あきえ</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>落葉搔き迷へる雀見詰めをり</td> <td>勇 平</td> </tr> <tr> <td>特選句</td> <td>冬將軍阿寒湖畔に居座れり</td> <td>勝 美</td> </tr> <tr> <td></td> <td>西の市三本締めのおかめの面</td> <td>三 洋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>頬刺す風漱石描く倫敦塔</td> <td>一 馬</td> </tr> <tr> <td></td> <td>谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td></td> <td>千歳飴笑ふ目元は婆さん似</td> <td>三 旦</td> </tr> </table> <p>主宰の指導</p> <p>○句の中に、例えば美しいというような形容詞は使わず、何が美しいかを表現すること。 動物や植物その他の名は、なるだけ仮名を使わず、漢字で表記するように。</p> <p>会員選高点句</p> <table border="0"> <tr> <td>6点句</td> <td>阿寒湖の毬藻の寢息冬銀河</td> <td>十 九</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>大河豚の泡吹きながら糶^せられけり</td> <td>一 清</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉</td> <td>とも女</td> </tr> </table> <p>次回の予定</p> <p>平成28年12月25日(日)午前9時30分~11時30分 金沢地区センター小会議室 第105回例会 兼題①十和田湖 ②中冬植物 他に当期雑詠2句 披講 鈴木祥代</p>		天賞句	阿寒湖のいのち鎮もる凍曇	和 女	地賞句	^{むささび} 鼯の飛び出しを待つ間の宿	あきえ	人賞句	落葉搔き迷へる雀見詰めをり	勇 平	特選句	冬將軍阿寒湖畔に居座れり	勝 美		西の市三本締めのおかめの面	三 洋		頬刺す風漱石描く倫敦塔	一 馬		谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉	とも女		千歳飴笑ふ目元は婆さん似	三 旦	6点句	阿寒湖の毬藻の寢息冬銀河	十 九	6点句	大河豚の泡吹きながら糶 ^せ られけり	一 清	6点句	谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉	とも女
天賞句	阿寒湖のいのち鎮もる凍曇	和 女																																
地賞句	^{むささび} 鼯の飛び出しを待つ間の宿	あきえ																																
人賞句	落葉搔き迷へる雀見詰めをり	勇 平																																
特選句	冬將軍阿寒湖畔に居座れり	勝 美																																
	西の市三本締めのおかめの面	三 洋																																
	頬刺す風漱石描く倫敦塔	一 馬																																
	谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉	とも女																																
	千歳飴笑ふ目元は婆さん似	三 旦																																
6点句	阿寒湖の毬藻の寢息冬銀河	十 九																																
6点句	大河豚の泡吹きながら糶 ^せ られけり	一 清																																
6点句	谷底へ燃えつつ舞ひぬ冬紅葉	とも女																																